

平成29年度 グーフィークラブ事業報告

1. 概要

①運営報告

- 落ち着いた環境の中で生活できるように、25名の定員での運営を行いました。
- 子ども主体の活動ができる環境づくりを心がけ、リーダーを中心に協力し合い子ども同士が支え合う生活を学びました。

②定員 25名

月極利用の他、必要に応じて一時利用、夏休みのみの利用も受け付けました。

③事業日数 292日 (日曜、祝日、園行事の日、12/30～1/4は休園)

④開所時間

平日 8:30～18:00 (延長は7:00～19:00)

土曜 8:30～17:00 (延長は7:00～18:30)

⑤職員数 指導員 1名 (保育士資格有)

2. 事業運営

①教育理念

- 放課後の生活を安全に守り、基本的な生活習慣の指導や学習の習慣づけの援助を行う
- 子ども同士共同しながら生きる力を育む

②教育方針

1. 生活の流れを把握し、リーダーを中心に子ども主体の活動を行いコミュニケーション力をつける
1. 正しい生活習慣を定着させる
1. 他律から自律へと成長していく過程を援助する
1. 「早寝 早起き 朝ごはん」を守る

③学年別目標

1、2年生

- 大事なことを聞く力、話題に沿って話し合う態度を身に着ける
- 集団の一員として自分の役割について気づき、適切な行動ができるようにする

3、4年生

- 筋道を立てて話す力、聞く力、話し合う力を身に着ける
- 目的を持って仲間とともにやり遂げる力を育む

④職員配置 学童保育指導員 1名（保育士資格有）

⑤活動内容

- 5年生のリーダーを中心に子ども主体の活動を行いました。
園庭や隣の公園に自分達だけで出ていき、ドッジボールや鬼ごっこなど集団ゲームで遊ぶ中で上級生が下級生の面倒を見たり、時間になると部屋に戻ってくるなど、1日の生活時間を守り責任のある行動の成長が見られました。
- 乳幼児クラスでのお手伝いやデイサービスとの異世代間交流を定期的に行なうことで慕われる喜びを味わうことや自分の成長を知ることができました。
- 野外活動（大阪市立科学館、アイススケートなど）を楽しみながら社会のマナー、ルールを学びました。
- 保小連携では年長児クラスとの交流活動（集団ゲーム、室内遊びなど）を不定期に行い、夏には生駒山山頂までの登山、キャンプファイヤー、園内でのお泊り保育も一緒に体験しました。年長児卒業時にはそれぞれが通う学校を制作する事で年長児の入学の不安を少しでもなくすと共に、学童の子ども達は先輩としての自信がついたと思います。
- サークルタイムでは様々なテーマ（クラス内のきまり、人の気持ち、命の大切さなど）を話し合いを行い、友だちの意見や話を聞く中で聞く力は身に付いてきましたが、自分の考えや気持ちを伝えることは苦手な子が多いのでこの点は来年度への課題だと思っています。

⑥家庭との連携

- 毎月、活動内容を報告する「おたより」を配布し、グーフィークラブ内での様子や小学生に関する情報を知らせました。
- 連絡帳、お迎え時などを通し、子どもの活動や様子を伝えました。
- 必要に応じて個人面談や送迎時に保護者と話をし、子どもへの共通理解を心がけると共に、家庭内の相談ごとを受けました。

⑦人材育成

- 職員の資質向上及び専門性の向上を図るため、小学校の授業参観や学習発表会に行き、子ども達の様子を見学すると共に、担任の先生にもクラスや学校全体の現状を聞き、少しでも子ども達の状況を知るようにしました。

⑧地域貢献

- 出張保育、園庭解放の手伝いをする事で地域の子供達とふれあいました。
- 夏休みには毎朝、瓢箪山公園の清掃を行いました。

⑨健康・安全

- 子どもの表情や様子の把握、異変に注意し的確な対応を行いました。
- 生活習慣、衛生管理の定着をはかりました。
- 地域、学校などと連携をとり、登下校時の安全確保を行いました。
- 警報発令時、学校や保護者と連携し子どもの所在確認と安全確保を行いました。
- 看護師による園内救急講習に参加しました。(AEDの使い方、応急処置など)

⑩苦情解決

- 「苦情申し出窓口」(指導員が受付担当者)、「御意見箱」を玄関に設置し、個人面談、連絡ノート、アンケートなどで保護者の意見を聞き、いただいた意見や要望については概ね24時間以内に回答し、活動に反映させ、回答については掲示板や広報に掲示をするようにしていますが、今年度は学童クラブに関する苦情はありませんでした。

⑪リスクマネジメント

- 施設内や利用する公園、学校までの道中の危険個所を子どもたちと見つけ、なぜ危険なのか、どのように回避すればよいのかを自分たちで考えると共に、通学路を守る事が危険回避になる事も指導していきました。
- 怪我や事故には十分に注意をはかりました。医療機関へ受診をするような怪我はありませんでした。
- 災害時の避難場所、避難方法、備蓄品などについて子どもたちと一緒に体験し災害時の行動について学習しました。